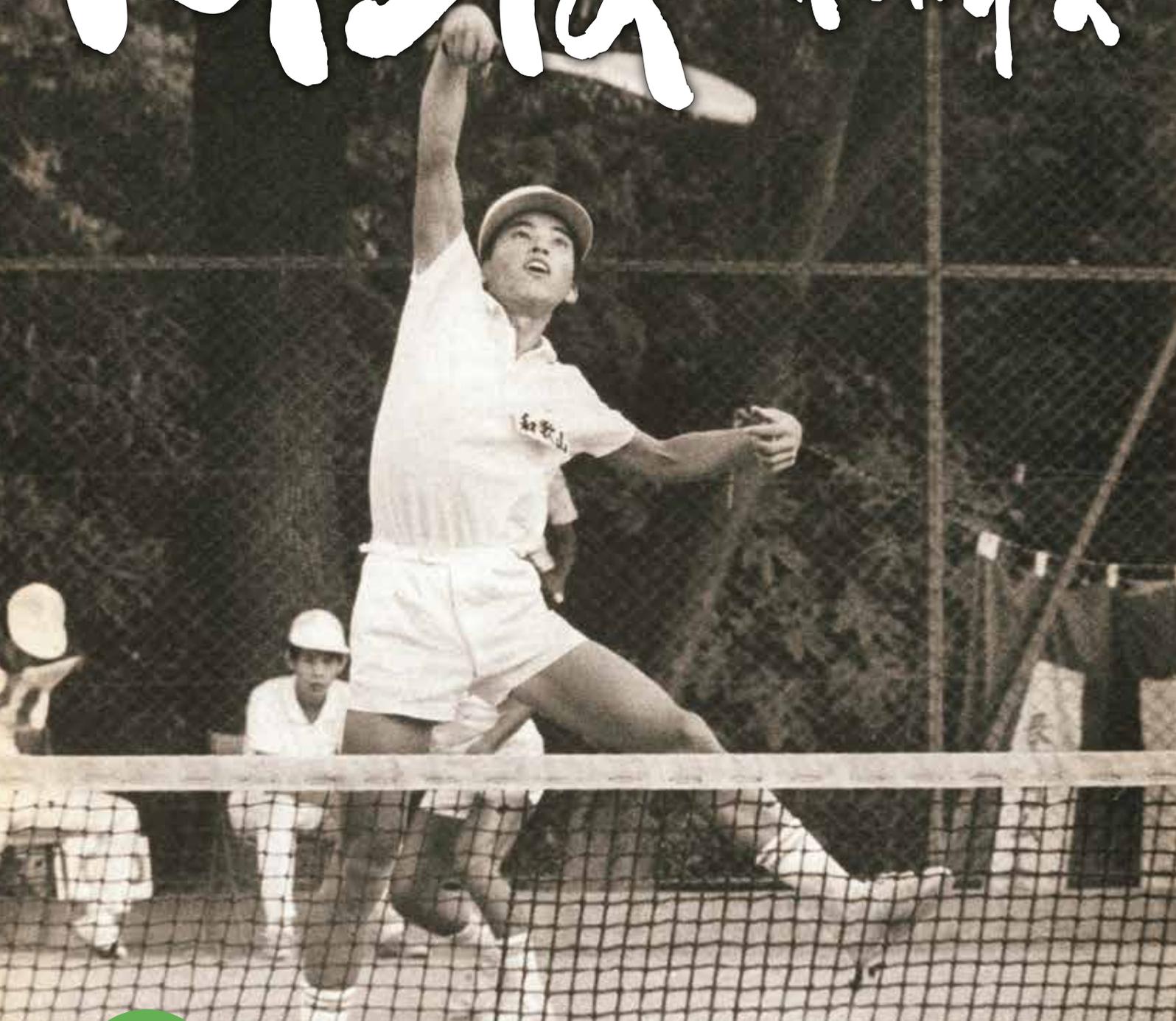


ふるさと再発見!

vol. 27

# ほろほろわかやま



巻頭  
特集

## ここが本場 ソフトテニス

散策  
ものづくりat和歌山  
わかやま魅力発信人  
I♥WAKAYAMA 私の和歌山

白と青の絶景のみち ー由良町白崎海岸ー  
「さびない」技術 コバルトシザー ー理美容鋏ー  
宮原麻里さん ー和歌山で見つかる『豊かさの種』ー  
私の愛する和歌山 ー由良町の自然と歴史を感じてー

ここが本場

# ソフトテニス

昭和45年（1970）、東京・日比谷で開催された第1回全国中学校ソフトテニス大会。全国から強豪が集うなか、男子の部を制し、栄えある初代王者に輝いたのは、和歌山市加太中学校のペア（＝表紙写真）だった。

この快挙に限らず、「和歌山のソフトテニス」が刻んできた全国の舞台での成果は目覚ましい。その裏には、一歩ずつ進めてきた普及・育成の取り組みがある。和歌山で腕を磨いた子どもが、やがて世界で活躍するトッププレイヤーに。そういう例も出ている。

現在、県内には小学生から競技に親しめるクラブが数多い。また、全20面を備えるテニスコートが整備され、全国大会の会場となる機会も増えた。これは、どこでも見られることではない。そう、ここはソフトテニスの本場なのだ。

## 中学ソフトテ界の頂点

昭和45年（1970）に第1回が開催された全日本中学生大会、初代王者の加太中学校はその後、第2回女子で準優勝、第4回男子優勝、第6回男子準優勝。黎明期の中学ソフトテニス界で、間違いなくトップ校のひとつだった。

現在、和歌山県ソフトテニス連盟で理事長を務める花田一弥さんは、第1回大会の開催時、高校二年生だった。「単純にす

ごいなあと。加太中学の活躍がその後の中学生、小学生の育成につながったのは間違いありません」と振り返る。

花田さんは大学を卒業後、和歌山で教員に。加太中学ソフトテニス部の顧問を務めたこともある。しかし「その頃から全国では勝てなくなった。壁にぶち当たった時代でしたね」。それでも、当時の指導者は歩みを止めなかった。「和歌山のソフトテニス」は、勝てなくなった時代からの地道な育成・普及の成果でもある。



ソフトテニスマガジン(1980)の加太中学校特集

## 信愛高校、国体の名将

和歌山のソフトテニスの歴史を語るうえで欠かせない人物がいる。昭和30年(1955)頃から和歌山信愛女子短期大学付属高校の軟式庭球部で指導を務めた川野忠男氏だ。

昭和45年(1970)のインターハイで初の団体優勝。その後も数々の実績を挙げ、国内トップクラスの選手を育て上げた。昭和46年(1971)の黒潮国体では監督を務め、総合優勝を果たした。



和歌山県ソフトテニス連盟  
理事長 花田 一弥 さん

そして、川野氏が国体終了後に立ち上げたのが、レディーズセンチュリークラブ(L.C.C.)だ。全国に先駆けて女性スポーツの向上、ジュニア(小学生)の指導に力を注いだ。

## L.C.C.勢の活躍

昭和59年(1984)の第1回全日本小学生選手権では、男子の部を和歌山L.C.C.所属のペアが制した。その後も、昭和、平成の時代を通じてコンスタントに栄冠に



加太中学校顧問当時の花田さん(左端)

輝いている。

中学生のカテゴリでも、昭和58年(1983)、和歌山L.C.C.の一期生が全国準優勝。これを皮切りに、中学のトップ戦線でタイトルを獲得するL.C.C.勢が続出した。「和歌山のソフトテニス」が、再び全国の舞台で脚光を浴びるようになった。

## トッププレイヤー

そして、早くから育成に力を入れた和歌山からは、数多くのトッププレイヤーが生ま



れた。

花田さんの長男・花田直弥さんは平成19年(2007)の世界選手権で優勝、前年のアジア大会でも金メダルを獲得するなど、輝かしい実績を残した。

和歌山市河西中学校時代に、男子では史上初となる全中大会3年連続出場を果たす。高校・大学と数々のタイトルを獲得し、社会人になってからも多くの国際大会に出場、男子ソフトテニス界の中心選手として活躍した。

また、和歌山L.C.C.か

ら和歌山市紀之川中学校、信愛高校と、地元で力を蓄えた河野加奈子さんは、平成16年(2004)世界選手権のシングルズで優勝した。

## 地域に根付く文化

花田さんが中学生でソフトテニスを始めた時、学校にはコートが1面しかなく、練習も男女一緒だったという。現在は20面を備えるコートが和歌山市と白浜町に整備され、全日本実業団やねりんピックなどを開催。全国でも有数の環境が整っている。

「和歌山のソフトテニスには、ジュニアからラケットを振る下地がある。環境も整い、文化として根付いてきている」。花田さんの言葉に、多くの選手や指導者が歩んできた歴史の重みが垣間見えた。

# ジュニア育成の先駆け

和歌山L.C.C. (レディースセンチュリークラブ)

監督 川並 久美子 さん

## 国体出場選手で結成

ジュニアでしっかりと基礎を身に付け、全国、世界の舞台へ。「和歌山のソフトテニス」の育成分野を引っ張ってきた和歌山L.C.C.は、もともと、1971年(昭和46)の黒潮国体に出場した女子選手で結成されたクラブチームだった。小学生の指導にシフトしたのは1981年(昭和56)ごろ。小学生全日本選手権が開催される数年前だった。



黒潮国体で総合優勝の表彰を受ける川野氏。和歌山L.C.C.の設立にも尽力。

## 好きになってもらいたい

和歌山L.C.C.の設立から参加し、現在も代表を務める川並久美子さんは「技術を磨くことも大事ですが、まず人として大切なことを身に付けられるよう意識しています。礼儀や、まわりの人たちへの感謝、道具を大切にすること。そこがスタートです」と力を込める。指導に力注いだ40年の間には、プロに



## L.C.C.カップジュニアソフトテニス大会

2022年で40回を迎えた全国規模の大会。県内・県外を問わず、ここで活躍し、のちに全国・世界の舞台へ羽ばたく選手も多い。トッププレイヤーへの登竜門とも言うべき大会となっている。40回大会はコロナの影響で選手、応援の人数を絞ったが、「早く大勢の歓声の中で開催できるようになれば」と川並さん。



第40回大会のプログラム



は「人ありき」の育成法がある。なった子どもも。その根底に



もうひとつ、重視しているのは「好きになってもらうこと」。最近ではキッズの指導にもチャレンジしている。今年度より中学生の育成もクラブチームとして始動していく。少子化の波は激しいが、ひとりでも多くの子どもにラケットを握る楽しさを知ってもらいたい。これからも、和歌山のジュニア育成を引っ張る存在であり続ける決意だ。

# 和歌山の教員として

## 次世代を育てる



### L.C.C.カップに出場

岡山県

出身

和歌山市立東中学校 顧問

**眞野 泰志** さん

岡山県出身。岡山理科大学附属高等学校から同志社大学。小学生時の2001年にL.C.C.カップジュニアテニス大会で優勝。高校・大学を通じて全国の舞台で活躍。2015年の紀国わかやま国体を機に和歌山へ。

イメージは、盛んで、強豪

他府県でプレーしていた時の和歌山県の印象は、ソフトテニスの競技人口が多く、ジュニアからの育成の体制がしっかり整っている地域。そして、

全国有数の強豪校のイメージも強い。例えば、信愛高校と言えば、野球で言うところの

智辯和歌山高校のように、常に優勝候補に挙がってくるくらいの実力校というのが共通

認識だという。「和歌山のソフトテニス」は、県外にも力強く轟いている。

しかし、課題もある。ジュニアから手塩にかけて育成した選手も、多くは県外に流出してしまう。「和歌山に根を下ろし、活躍する人に出てきてほしい」。そのためにも、

競技の裾野をさらに広げることが使命と考える。「中学校で初めてラケットを握るよう

な子どもも、それぞれの目標

をしっかりと達成させてあげて、ソフトテニスの面白さを伝えていきたい」。和歌山の子どもたちとともに汗を流す日々が続く。

をしっかりと達成させてあげて、ソフトテニスの面白さを伝えていきたい」。和歌山の子どもたちとともに汗を流す日々が続く。



和歌山市立東中学校 ソフトテニス部

### 国体を機に

2015年の紀の国わかやま国体の際、和歌山県の選手として出場するために来県し、眞野さんのようにそのまま腰を落着けた選手も多い。それらの人たちは、後進の指導にあたる教員や、競技の普及に努める県職員となり、今も「和歌山のソフトテニス」の発展に一役買っている。

切りに、高校、大学と全国の舞台で活躍した。和歌山を初めて訪れたのは小学生の時、L.C.C.カップに出場するためだった。4年生と5年生の2大会に出場。教員となった今、その和歌山でソフトテニスの普及と選手の育成にかかわっていることに、不思議な縁を感じる。

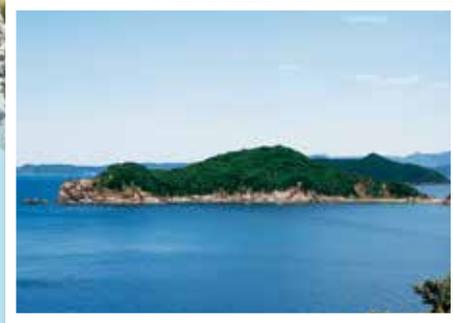
な子どもも、それぞれの目標

# 白と青の絶景のみち

— 由良町 白崎海岸 —

24

⑥ 十九島



## ⑥ 十九島 (つるしま)

番所跡から望む戸津井漁港の西に浮かぶ島。有名な犬のキャラクターが寝そべっているように見えるとSNSで人気。

## アクセス

### 電車・バス

JR紀伊由良駅から中紀バス白崎方面行きで25分、「白崎西」下車

### 自動車

湯浅御坊道路広川ICから約15km



## ① 大濤 (おおばい)

ウミネコの繁殖地として知られる岩礁。毎年4月下旬ごろに飛来し、7月下旬まで子育てをする。

和歌山県沿岸部のほぼ中央にある由良町。なかでも白崎海岸は白亜の石灰岩で覆われた岬と紺碧の海が織りなす景観から「日本のエーゲ海」とも称される。2018年の台風被害を乗り越え一部再開している白崎海洋公園をメインに絶景を楽しむ。



総距離は約5.5km  
所要時間約3時間

白崎西バス停をスタート。右手斜面に立ち並ぶ民家や左手の大引漁港を眺めながら県道24号線を進むと、湾の入口に大きな岩礁「大礫」がある。毎年、春から夏にかけてウミネコが産卵のために飛来するそうだ。そこから約300m先に「白崎万葉公園」があり、左前方の海上に白い岬が見えている。古くは万葉集にも詠まれたこの景観を、万葉人と同じように海から眺めたくなった。再び来る時はクルーズ船を予約してみようか。

次は海にそびえ立つ「立巖岩」にむかう。自然の造形美に加えて大きさも迫力満点だ。続いて県道を進むと山の側壁に「白崎の自然水」と記された小さな表示看板があった。パイプからは水は出ておらず残念だ。気を取り直して岬を目指す。ようやく着いた「白崎海洋公園」は道の駅として整備されており、白い巨岩群に囲まれた風景は、海外にいるような気分になってくる。天気の良い日には、展望台から淡路島や四

国まで眺めることができる。

ここは明治から昭和にかけて、セメントの原料である石灰岩の採掘場として一時代を築いていた。太平洋戦争の末期には、坑道が転用されて人間魚雷「回天」の出撃基地が置かれた。回天の配備が遅れ、この地から海の特攻隊が出撃することなく終戦となったのは救いだ。

昭和47年(1972)の鉾山閉山から長い時を経て、今や人気スポットとして生まれ変わったこの地には、近代産業遺産と戦争遺産という2つの側面があった。

次は県道の急な坂道を約450m上り、白崎青少年の家方面へ右折する。さらに約130m先からハイキングコースへと入る。石段を上って視界が開けると野生水仙の群生地である。ここは「白崎遠見番所跡」で、江戸時代には紀伊水道を通る船の監視にあたっていた場所だ。近くの展望台や広場からは「十九島」をはじめとした島々がよく見える。

先のハイキングコースは、慣れない土地で道に迷いそうだったので、引き返して帰路についた。

シャクシの浜

遊歩道

展望台

⑤ 白崎海洋公園〔由良町大引960-1〕  
食事や買物ができるパークセンターやオートキャンプ場などがある道の駅。展望台からは360度の大パノラマが楽しめる。https://kishunowa.jp



④ 白崎の自然水  
県道沿い山中の側壁に表示がある。石灰岩の山中から湧き出した天然ミネラル水が飲用できるそうだ。



⑥ 立巖岩(たてごいわ)  
波の浸食により中央に穴のあいたアーチ状の一枚岩。頂上を覆う緑は、由良町の木である紀州榎柏。



② 白崎万葉公園〔由良町大引956-5〕  
701年に持統天皇と軽皇子(後の文武天皇)が牟呂の湯(白浜温泉)へ行幸した際に読まれた和歌と現在の和歌。2つの歌碑が並ぶ公園。



## 研いでも切れない鋏

理美容の業界で欠かせないコバルト製のシザー（鋏）。それを世界で初めて開発したのが、和歌山市の菊井鋏製作所だ。和歌山のものづくりのトップランナーとして、今もその技術は輝き続けている。

創業者の菊井喜代次さんは、幼少の頃から刃物を研ぐのが得意だったという。戦時中、ジャマイカで捕虜となった喜代次さんは手先の器用さを見込まれ、ナイフなどの刃物を研ぐ機会が多かった。ある日、理美容鋏も同じように研いでもらえないかと頼まれたが、研げば研ぐほど切れ味が悪くなる。こんな経験は初めてだった。

帰国後、うまく研げなかったことを疑問に思った喜代次さんは、東京・大阪のメーカーを訪ね、約5年の修行で、理



グラインダーで合金を研いで形を整える

美容鋏制作のノウハウを学んだ。その後独立し、1953年（昭和二十六）、親戚の居た和歌山で「菊井鋏製作所」を創業する。

## 加工が難しい金属

喜代次さんは理美容鋏に

# 「さびびない」技術 コバルトシザー



工程により粒度の違うベルトを使い分ける

ふさわしい材料を模索、やがてコバルトに行き着いた。一般的なステンレス製の鋏は鉄を主成分とし、さびから逃れることが出来ない。菊井鋏製作所のコバルトシザーはコバルトを約70%使用したコバルト基合金。鉄を一切使用しないため、パーマ液などの薬剤を使う環境であっても決してさびることがないという。また、耐摩耗性にも優れ、切れ味が長続きするのが特徴だ。

### ものづくりの継承



ハンマーでわずかな刃の反りを調整して仕上げる

現在の社長は喜代次さんの孫にあたる菊井健一さん。コロナ禍の中、売上が落ち込むも、最近では海外からの注文が増えてきているという。「どの国も、外出制限

を全てコバルトシザー専用に整えることで、理容師の細かな注文にも応えてきた。

などの影響で美容師の仕事が難しくなっている中で、技術を磨き、質の高い道具を必要とするようになっていっているのではないかと健一さんは語る。

このほか、屋外で散髪を行なう「あおぞら美容室」の開催や、ものづくりの技術を紹介する「和歌山ものづくり文化祭2022」を主宰するなど、和歌山の優れた技術を伝える活動を精力的に行なっている。

### 和歌山ものづくり文化祭2022

木工、漆芸、金属加工、繊維。和歌山に根を下ろし、技術を培ってきた多くのものづくり企業が一同に集い、その技術をその場で体験して楽しめる和歌山で初めてのイベント。  
テーマは「ものづくりの未来を創る、体験と学び」。



主催 和歌山オープンファクトリー推進委員会  
日程 11月5日(土)・6日(日) 10:00~17:00  
会場 和歌山城ホール1F 展示室  
出展 和歌山県北部のものづくり企業 20社程度  
内容 ①ワークショップ or 製作実演  
②和歌山で作られる商品の販売

協賛 きのくに信用金庫 株式会社仕事旅行社 アンドユー  
協力 南海電気鉄道株式会社 株式会社ワカヤマヤモリ舎  
後援 近畿経済産業局 和歌山県 和歌山市  
※ 入場無料 ただし、一部ワークショップは有料

### 菊井鋏製作所

〒641-0007  
和歌山県和歌山市小雑賀2-2-31  
TEL:0120-959-833





ゲストハウスRICO  
マネージャー

宮原 麻里さん



# 和歌山で見つかる「豊かさの種」

今回は兵庫県（西宮市）出身で、ゲストハウスRICO（リコ）を運営する宮原麻里さんに、ルーツの土地である和歌山の魅力を語っていただいた。（右は夫の宮原崇さん）

## 地域を知る玄関口に

麻里さんが和歌山で暮らし始めたのは2015年（平成二十七）のこと。「和歌山の良さを知り、愛着を持ってもらう拠点を「つくりたい」と、同年、オープンしたゲストハウスRICOのスタッフとして参画した。

和歌山市の中心部で、築50年以上のレトロなビルをリノベーション。宿泊客だけでなく、ダイニングバーのお客さんや、コワーキングスペースを利用するビジネスマンなど、さまざまな人が訪れる。「ゲストハウスはあくまで玄関口。ここでの出会いが、地域の魅力に触れてもらうきっかけになってほしい」。夫の崇さんと二人三脚で運営に取り組む日々だ。



## 先祖代々の土地

麻里さんの両親は和歌山市の出身。麻里さん自身は茨城県生まれで、東京都や兵庫県で育ったが、和歌山には毎年何度か訪れた。おばあちゃんの家がある場所というイメージだった。

とは言っても、訪れる先が家なのだから、思い出も家を中心。墓参りや買い物に出かけることはあっても、和歌山のどこかが強く印象に残るといふほどではない。先祖

代々の土地だという意識もなかった。

しかし、いざ和歌山に住み着いてみると、やはり自分は和歌山の血を受け継いでいると気づかされることが多い。例えば、父親の和歌山っぽさ。「父はしらすが好きだったり、お刺身を食べて『これは養殖やな』と指摘したり、魚へのこだわりがすごかった」。実際に和歌山で魚を食べて、「こんなにおいしいんだ」と納得した。

## 自然体は心地良い

魚介類はもちろん、イチゴや桃などのフルーツに、地元産の野菜。季節ごとに楽しむことのできる食材はまさに自然の恵みだ。それに加えて、麻里さんが和歌山の宝だと感じるのは、



**宮原 麻里**

1981年、兵庫県出身。2015年に来和し、和歌山市新通のゲストハウスRICO(株式会社ワカヤマヤモリ舎)にオープンから参画。「和歌山市内の遊休不動産を活用したエリアプロデュース及びエリアマネジメント」をコンセプトに、夫の崇さんとともに運営する。大新地区の店舗や空き家、公園などを活用したマーケットイベントをはじめ、地域活性化のイベントも開催。

その自然に根を張る人たちの自然体でおおらかな人柄だという。「和歌山弁には敬語がないとよく言われるし、距離が近すぎると感じる人もいるかもしれない。でも、私にはそれが心地良いんです」。年齢にかかわらずあだ名で呼び合う会話を耳にしたり、スーパーで荷物が重いだろうとおじいさんが助け

てくれたり。そういう出来事のひとつひとつに、和歌山の人たちの心豊かなさが詰まっている。「根を張って生きる」

「豊かさ」は、ゲストハウスRICOのコンセプトのひとつでもある。「訪れる人が、自分の中にある豊かさの種に気づく場所」。その種をここ

という場に植えて、育てていってもらえればと思っている。これは、麻里さん自身が経験したことでもある。「かつては雲のようにフワフワした生き方が合っていると思っていた。でも、この場所で先祖代々の土地とつながっている自分を発見し、根を張って生きていきたいと思うようになった」と振り返る。



併設のバル「Una rama de RICO」昼間はシェアスペースとして利用可能。

郵便はがき

料金受取人払郵便

6 4 0 - 8 7 9 0

和歌山中央局  
承認

6391

差出有効期限  
2022年12月  
14日まで

和歌山市梶取17-2

株式会社 **ウイング**  
「ほうぼわかやまクイズ  
&プレゼント」係



|         |           |     |                    |
|---------|-----------|-----|--------------------|
| ふりがな    |           |     |                    |
| お名前     |           |     |                    |
| 年齢      | 歳         | ご職業 |                    |
| ご住所     | 〒         |     |                    |
| 電話番号    |           |     |                    |
| クイズの答え  | 1 • 2 • 3 |     | ※あてはまるものを1つ選びください。 |
| 本誌の入手場所 |           |     |                    |

※応募くださいました個人情報は、プレゼントの発送及び弊社からのお知らせ以外には使用しません。

